

外来語接尾辞「ライク」

村 中 淑 子

1 はじめに

外来語に関する研究の多くは、外来語の単語を扱った研究であるといっ
てよいだろう。だが、単語レベルだけではなく、接辞レベルでも、外来語
の研究を進めていく必要がある。接辞は、単独では使われないが、いった
ん造語力を持つと、新しい語を次々と作り出し、語彙を豊かにする可能性
のあるものである。語彙体系の中で一定の位置を占めうるものだと言えよ
う。

外来語の役割として、「外国文化の享受」「新たな概念の導入」などがあ
るといわれる。しかし、接辞の場合は、具体的な指示物は無く、実体のあ
る概念を示すわけでもない。つまり、外来語の接辞の場合、それが日本語
の中に取り入れられる理由は、新しい事物や現象や考え方などを指し示す
ためではない。「新しい語感」あるいは「新しい機能」を取り入れるため
であろうと考えられる。では、外来語の接辞によって、どのような語感や
どのような機能がどのように取り入れられるのだろうか¹⁾。

筆者は、外来語の接尾辞が、どのような様相をもって使われるようになったのか、という疑問を持って、「チック」を対象とした研究を行っている。本稿では、「チック」の類義語とも言える接尾辞「ライク」を対象として

* 本学国際教養学部

キーワード：接辞、造語、専門語、集団語、日本語化

考察を行なう。

「メンズライクなシャツ」「ホテルライクな部屋」といった日本語表現がある。それぞれ、「(男物ではないが) 男物のような印象を与えるシャツ」「(ホテルではないが) ホテルのような印象を与える部屋」といった意味の表現であろう²⁾。メンズライク、ホテルライクはカタカナ連続であり、一見して意味の切れ目は明らかでないが、メンズやホテルという語の存在から、メンズ+ライク、ホテル+ライク、のように類推し分析することができる。すなわち、「ライク」という接尾辞を取り出す、という捉え方が可能である。この「ライク」は、英語の“-like”に由来するものであるが、それが日本語の中にどのように取り入れられ、機能するようになったかに注目する。

以下、2章では、まず「ライク」の使用実態について資料を検索した結果を述べる。資料として用いたのは「現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」、 「新聞コーパス(読売新聞 CD-ROM)」、 「CiNii(NII論文情報ナビゲータ[サイニィ])」の3種である。3章では、2章でみた使用実態から「ライク」の性質についてまとめ、類義語との比較を行う。4章では、「ライク」の日本語化プロセスについて考察する。

2 「ライク」の使用実態

2-1 現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)における「ライク」

まず、現代日本語の書き言葉全般において、接辞「ライク」がどのくらい使われているのか、おおよその実態を把握するために、「現代日本語書き言葉均衡コーパス(略称 BCCWJ)」を用いて、「中納言」による検索をおこなう³⁾。サブコーパスごとの延べ出現回数をまとめたものが、表1である⁴⁾。

外来語接尾辞「ライク」

表1 BCCWJ中納言における「ライク」の使用状況

サブコーパス	ライクを含む語					計
	ビジネスライク	メンズライク	レディライク	アンスポーツマンライク	その他	
雑誌 (2001~2005)	1	20	6		16	43
図書館・書籍 (1986-2005)	17			2	1	20
出版・書籍 (2001-2005)	8		1	3	3	15
ベストセラー (1976-2005)	2					2
新聞 (2001-2005)					1	1
Yahoo! 知恵袋 (2005)	3				3	6
Yahoo! ブログ (2008)	1		1		3	5
計	32	20	8	5	27	92

BCCWJのサブコーパス⁵⁾のうち、「白書」「教科書」「広報紙」「韻文」「法律」「国会会議録」には接辞「ライク」が出現しなかったため、表では省いている。

表1の通り、BCCWJ全体で、「ライク」を含んだ語の使用は92件であった。そのうち約3分の1を「ビジネスライク」が占める。「ビジネスライク」は、書籍を中心として、雑誌やネット掲示板においても使われている。BCCWJにおけるライクを含む語形の中では唯一、辞書に掲載されているものであり(『広辞苑』『大辞林』『大辞泉』等)、現在、ビジネスライクの形で日本語の形容動詞の語彙として定着しているものと考えられる。

「ビジネスライク」に次いで多い「メンズライク」は、雑誌サブコーパスのみに出現した。雑誌の内訳は、BOAO, PS, 装苑, Zipper, CLASSY, マフィン, with, Oggi, Precious, JJ, GINZA, である。「レディライク」も、雑誌における出現がほとんどであり、Domani, Precious, Oggi, ViVi, GINZA, にみられた⁶⁾。「メンズライク」および「レディライク」は女性向けファッション雑誌の用語であると思われる。ほとんどが「メンズライクな」「レディライクな」の形で接続する。

「アンスポーツマンライク」は、『バスケットボール』（学習研究社）に3回、『詳解バスケットボールのルールと審判法』（大修館書店）に2回、出現したもので、いずれも「アンスポーツマンライクファウル」という複合語の中に含まれた形である。バスケットボール競技の専門用語であろう。

表1で「その他」としたのは出現度数が1もしくは2のものである。具体的な語形を表2に挙げる。出現度数が2のものに(2)を付けた。「ライク」の直後の形とともに示す。

表2 BCCWJにおける「ライク」を含む語で出現度数が1または2のもの

	前接要素の語種			
	アルファベット語	外来語（カタカナ語）	漢語	混種語等
雑誌	NEXTSTEP ライク ☒(2)	カジュアルライク☒ ジュエリーライク☒(2) スポーツライク☒ デジカメライク☒ ボーイズライク☒ 「ミニピンライク・チワワ」 モデルライク☒ 「テリアライク・クオリティー」 ランジェリーライク レーシングライク☒	乗用車ライ ク☒	一眼レフライ ク☒ 五十'Sライク ☒
図書館 書籍		マザーズライク☒		
出版 書籍	WindowsXP ライク ☒	ノーマルライク☒ ユーザーライク☒		
新聞		「スメルズ・ライク・ティーン・ スピリット」		
知恵袋	FD ライクです	エクスプローラライク☒ ビートル・ライク☒		
ブログ	ELO KIDDIES ライ ク☒	フィルムライク☒	西武鉄道ラ イク☒	

これを見ると、パソコン、カメラ、乗り物、音楽、ファッション、などの分野における用語として、「ライク」を含む語が用いられていることがわかる。

外来語接尾辞「ライク」

カギカッコ付きで出現したものが3つ、単独で接続無しで使われていたものが1つ、あったが、それらはいずれも、外来語というよりは、英語を臨時的にカタカナ表記したもので、日本語として熟していないものとみられる。「ミニピンライク・チワワ」と「テリアライク・クオリティー」は、『愛犬の友』（誠文堂新光社）という雑誌に出現したもので、後者を含む文は「アメリカではこれを「テリアライク・クオリティー」と表現していますし、……」となっております、この語を、既製の語ではなくこの文脈で新たに導入したものと捉えているのがわかる。「スメルズ・ライク・ティーン・スピリット」は、神戸新聞（2005年10月12日夕刊）における音楽評の中で、評論対象となっている楽曲名（原語は *Smells Like Teen Spirit*）である。「ランジェリーライク」は、直前に *Lingerie like* が書かれていた。

以上のカギカッコ付きの3つと単独使用の1つを除くと、「一な」の接続するものが17、「一に」が2、「一です」が1、「一の」が1、である。いずれも日本語の形容動詞の形で日本語化して使用されているとみられる。

前接要素の語種をみると、漢語や混種語もあり、また外来語の中でもデジカメライクは省略語のデジカメにライクがついたものであり、これらは「ライク」が日本語化して使われている度合いの強いものと考えられる。

以上のことから、現代日本語の書き言葉においては、おおむね、「ライク」は趣味的な領域の、集団語の中で、形容動詞を構成する接尾辞として、造語力を発揮しているといつてよいだろう。

2-2 新聞コーパス（読売新聞 CD-ROM）における「ライク」

次に、読売新聞 CD-ROM を用いて「ライク」を検索した⁷⁾。これは、英語を起源とする外来語が一般に使われ始めた時期であると思われる明治期から、1970年頃に至るまでの使用状況を見るためである。その結果を示したのが表3である。

表3 明治～昭和の読売新聞における「ライク」

1902 (明治35)	ビジネスライク 1		
1925 (大正14)	ビジネスライク 1		
1941 (昭和16)	ビジネスライク 1		
1949 (昭和24)		スポーツマン・ライク 1	
1955-1959 (昭和30-34)	ビジネスライク 5		
1960-1964 (昭和35-39)	ビジネスライク 2		
1965-1969 (昭和40-44)	ビジネスライク 3		スター・ライク 1

1955年以降は5年刻みで語形と出現数を表したが、それ以前は出現がごく稀であるため、出現の年そのものを示している。

読売新聞が創刊された1874 (明治7) 年から終戦の年 (1945年) までの約70年間は、ビジネスライクが3回出現したのみである。終戦後まもない1949年にスポーツマン・ライクが使われている。その後、1955年から1969年までは1~2年に1回の割合でビジネスライクが現れている。

1966年に出現したスター・ライクは、既製の語でなく新規の語として導入するという文脈で用いられている。「普通の銀河より、放出されるエネルギーも、電波の強さもケタはずれに大きいところから、スター・ライク (準星) という奇妙な名がつけられた。」1966年2月24日夕刊)

それに対して、ビジネスライクおよびスポーツマンライクは既製の語として現れている。「ビジネスライクに」「一の」「一な」「一すぎて」「一だった」「スポーツマンライクに」の形で使われており、日本語の形容動詞として取り入れられた形になっている。ただし、形容されている対象を見ると、アメリカ人の行動・態度に使われているケースが大半である。あるいは、英語で話された談話の翻訳 (「」で括られた発話) の中に出現した例もある。現在、「ビジネスライク」の意味として辞書に掲載されているのは、「感情をまじえず、物事を事務的に処理するさま。また、実的なさま。(広辞苑)」「能率的にわりきってするさま。事務的。職業的。(大辞林)」

外来語接尾辞「ライク」

などであり、とくに異国的・外来的な特徴を表す、という意味は含まれていないはずであるが、1969年までの読売新聞データを見た限りでは、「ビジネスライク」が形容する対象は、異国的・外来的なものに偏っていた。

本節で扱ったのは、読売新聞のみを検索したデータであるが、政治面・社会面・家庭面そのほかの全ての記事と広告面も含んだ全文の検索であり、非専門的かつ公的な、一般の日本語の書き言葉は、おおよそ網羅しているといつてよいのではないかと推測される。

したがって、明治期から昭和後半（1970年頃）までは、一般的な日本語の書き言葉語彙の中に、「ライク」を含む語は、ビジネスライク（とスポーツマンライク）が個別的に日本語の中に取り入れられただけであり、ライクが接尾辞として取り出されてはいなかったとみてもよいのではないかと推測される。

次章では、専門的な分野における様相を見ることにする。

2-3 CiNii における「ライク」

CiNii の詳細検索で、「論文名」に「ライク」を入れて検索した結果を表4にまとめた⁸⁾。CiNii を用いたのは、専門用語における語の使用実態の一端がそこに現れていると考えられたからである。表2と同様、前接要素の語種ごとに分類して示した。語形の後ろのカッコ入り数字は、2回以上出現したものの出現度数である。□□□□は「な」が後接して現れたもの、■■■■■は「の」が後接して現れたもの、そのほかは、後ろに名詞がついて複合語になっているものである⁹⁾。

先取的に大まかな結論を述べれば、「ライク」は、さまざまな専門分野において、専門語を構成する接尾辞として、相当程度、なじみのあるものとなっているのではないかと考えられる¹⁰⁾。

表4と元の資料（CiNii「論文名」による「ライク」検索結果）からわかることを次に挙げていく。

表4 CiNii 掲載論文名における「ライク」

前接要素の語種			
アルファベット語	外来語 (カタカナ語)	漢語	混種語
Awk ライク (2) CALs ライク CT ライク Java ライク LIGA ライク (4) Linux ライク PDP-11 ライク STL ライク UNIX ライク	アーキライク, アクタライク, インフレクション・ライク, ウールライク (4), オニオンライク (2), カーストライク, ガラスライク (2), グラフィイトライク, クラリネットライク (4), シルクライク (12), スーパーセルライク, スターライク, ステップライク, スパンライク (10), スピンバルブライク (3), ソリトンライク, ダイヤモンドライク (148), チェスライク (2), デザイナーライク (2), ドラッグライク (3), ノイズライク, バンドライク (3), ヒューマンスピーチライク (3), フィルムライク (3), フォトライク (2), ペイントライク, ペーパーライク (18), ベクターライク (2), ベクトルライク (2), ユーティリティライク, ライトライク (7), ライフライク, ラットライク, ラバーライク, リソグラフィ・ライク, リンネライク [リネンライクの間違い?] ¹¹⁾ , ロバストライク	高級言語ライク 地下鉄ライク 本物ライク	iモードライク 三次元XYライク
異なり数 9	異なり数 37	異なり数 3	異なり数 2
延べ数 13	延べ数 250	延べ数 3	延べ数 2

異なり合計 51 延べ合計 268

(1) 「ライク」の含まれる語が異なり数で51現れたうち、「な」の後接するものが20, あった。すなわち, 異なり数からみると, 半数弱の語には, 日本語の形容動詞のマーカーがついていた。

(2) アルファベット語やカタカナ語ではなく, 漢語に「ライク」の接続するものがわずかながら見られた。

(3) 延べ語数268のうち, 半数以上の148をダイヤモンドライクが占めた。

外来語接尾辞「ライク」

これは1980年代後半から現在に至るまで現れており、ダイヤモンドライクカーボンという形がほとんど（148中145）である。ダイヤモンドライクカーボンの形で専門語として固定化しているものと見られる。日本熱処理技術協会、電気学会、日本真空学会、日本繊維機械学会、日本機械学会、日本表面科学会、精密工学会、先端加工学会、プラズマ応用科学会、日本物理学会、電子情報通信学会などの雑誌掲載論文に現れる。

（4）次に延べ数が多かったのは、ペーパーライクの18。これは、2000年代から現れ、ペーパーライクディスプレイ、ペーパーライクコンピューティング、ペーパーライク化、などの語を構成している。工業調査会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、リコー研究開発本部、日本接着学会、日本ゴム協会などの雑誌掲載論文に現れる。

（5）延べ数が3番目に多かったのは、シルクライクの12。これは1960年代後半から現れている。繊維学会、日本繊維機械学会、大阪工研協会、日本バーチャルリアリティ学会、情報処理学会の雑誌掲載論文に現れる。シルクライク加工、シルクライク織物、シルクライクポリエステル、シルクライク合織、シルクライク繊維、シルクライク差別化、などの語を構成する。ウールライクも同様に1960年代から現れ、繊維学会の雑誌に見られる。ウールライク新素材、ウールライクポリエステル、等を構成する。

（6）CiNii「論文名」による「ライク」検索結果延べ268件のうち、最も古いものは1964年のスターライクである（スターライクはこの1件のみ）。その後、1966・1971・1973年のウールライク、1967・1971・1973年のシルクライク、1974年のライトライク、1975年のスパンライク、等と続いていく。専門分野の学術用日本語においては、一般日本語の趣味的集団語よりも、古い時期から「ライク」を含む語が使われてきた可能性があると言えるであろう。

3 「ライク」の性質について

本章では、前章でみたデータ、およびデータの前後の文脈などを用いて、「ライク」の性質について述べる。

3-1 趣味的集団語としてのライクと学術的専門語としてのライク—文法的性質—

2-1 でみたように（表2）、パソコン、カメラ、乗り物、音楽、ファッション等の領域の集団語においては、「AライクなB」の形で使われる場合がほとんどである。すなわち、前接要素Aにライクがつき、形容動詞のマーカの「な」を介して後接要素のBを修飾する。趣味的集団の集団語におけるライクは、Aを含んだ形容動詞を構成するための接辞、という機能を持つといえよう。

それに対して、2-3 でみたように（表4）、専門語（学術用語）においては、「AライクなB」の形も見られるが、「な」を介しない「AライクB」が多い。すなわち、AとBをライクでつないで一語化するものが多い。専門語におけるライクは、名詞と名詞をつないで長い名詞を構成するための接辞、という機能を持つ。

3-2 ライクの意味

「Aライク（な）B」がどのような意味を持つのか、使用例を検討すると、次の①～④の4つに分類できる¹²⁾。

① 比喩を表す。

「Aライク（な）B」は、「AのようなB」「Aとは別のカテゴリに属し、Aには当てはまらないが、知覚的性質などがAに似ている、B」である。

外来語接尾辞「ライク」

- a. 地下鉄ライクな一般鉄道 (『鉄道ピクトリアル』62(5), 2012年)¹³⁾
- b. ガラスライクなプラスチック (『包装技術』45(8), 2007年)
- c. 本物ライクなサンプル (『コンバーテック』34(1), 2006年)

次の例のようにAとBが、連続的・相対的なカテゴリであってもよい。

- d. K-1 や PRIDE は、勝負にこだわるという意味でプロレスよりもスポーツライクな興業であるため、本来的には演劇的要素がなくても成立するのだが、… (『日本大学芸術部紀要』40, 2004年)

Bが動作性を含む名詞である場合は、「AライクB」は「AのようにBする」「AではないものがAに似るようにBする」の意味になることもある。

- e. (Android 携帯について) PC ライクな使い方も簡単にできる (『日経Linux』12(8), 2010年)
- f. ガラスライクコーティング (『工業材料』51(3), 2003年)

特別な形として、Bが接辞であるものがある。この場合、「AライクB」は「Aのように」+Bとして働く。

- g. ペーパーライク化の動向 (『O plus E』25(3), 2003年)

②カテゴリの代表を表す。

「Aライク(な)B」は「Aを代表的要素として含むB」となる。

- a. (将棋, チェス, 象棋(中国将棋))の3種のゲームをまとめた呼び方として)
チェスライクゲーム 『情報処理学会研究報告』99(53), 91-98 (1999-06-24)

③前接要素に省略のあるもの

「A B ライク (な) C」と呼ぶべきところのBを省略し、「A ライク (な) C」となっていると思われるもの。Bがなくても推測はできる文脈で使われる。省略しない形における意味は①と同様である。

- a. 定番の鹿の子ポロはもちろん、時代を意識した高性能マテリアルを採用したスポーツライクなものなど様々なブランドから新作が登場。(PM11_00856)
- b. (車について) レーシングライクなデザイン (PM45_00091)
- c. (車について) ノーマルライクな乗り味を (PB4n_00050)
- d. フィルムライクなカメラをめざして (『包装技術』56(3), 2003年)

aは「スポーツウェアライクなもの」、bは「レーシングカーライクなもの」、cは「ノーマル車ライクなもの」をそれぞれ省略したものと思われる。dは「フィルムカメラライクなもの」の煩雑さを避けて「カメラ」を省略したもののように思われるが、「フィルムライク」という形式がすでに専門用語としてかなり定着しているようである(「映画技術の側面から見た1080/24Pの必然性と将来性」Kobayashi Norio『駒沢女子大学研究紀要 9』, 55-78, 2002-12-24を参照)。

④「あいまい化」

この場合、「A ライク (な) B」は「A (な) B」とほとんど同じであるが、ややあいまい化された印象を与える。

- a. ロハスライクな満足が得られる (『静岡文化芸術大学研究紀要』9, 2008年)
- b. ヒューマンライクな人と機械のインタラクション (『映像情報メデイ

外来語接尾辞「ライク」

ア学会技術報告』22(9), 1998年)

- c. 太めのボーダーがカジュアルライクなくヒステリックグラマー)。
(PM11_00856)

aは「ロハスな」とも言えそうである。bは、「人と機械のヒューマンインタラクション」というのとほぼ同じように思われる。cも、「カジュアルな」と変わるところがほぼ無いと思われる。つまり、これらのケースでは、ライク自体に意味はほとんど無いが、ライクを付けることにより、断言しないあいまいさが加わるようである。

以上の①～④の中で、「①比喩」が基本的な意味であろう。「②カテゴリの代表」は①を拡大したものであり、「③前接要素の省略」は、省略されたと思われるものを戻せば、①と同じになる。「④あいまい化」は前接要素が形容詞的であるために、ライクが比喩の意味を持てなくなり、あいまい化したものであろう。

3-3 ライクがなぜ使われるのか

ライクの類義語として、「みたいな、ような、っぽい」「ふう、ふうの」「的」「チック」等が挙げられる。ライクをこれらと比較し、違いを確認しながら、ライクが使われる要因について考察する。

3-3-1 語をつなぐ機能

まず、「AライクB」は、「AみたいなB」「AのようなB」「AっぽいB」と言い換えることができそうである（例：シルクライクポリエステル→シルクみたいなポリエステル、シルクのようなポリエステル、シルクっぽいポリエステル）。

しかし、「AみたいなB」「AのようなB」「AっぽいB」はいずれもAとBが別の語となっている。アクセントはそれぞれ「エーミタイナビー」「エーノヨーナビー」「エーッポイビィー」となり、2つの句であることが音調的に表示される。

「AライクB」であれば、「エーライクビィー」となり、AとBを含んだ一つの音調句にまとめられる¹⁴⁾。前接要素や後接要素が2つ以上の語であっても同様である。すなわち、AライクBCは「エーライクビーシー」、A BライクCは「エービーライクシー」となる。(もちろん、「ライクな」という形容動詞の形になれば、後接要素とは切り離されて、音調句は2つとなり、「エーラィクナビィー」となる。)

以上見たように、ライクには、2つ以上の語をまとめて長い一語を作る機能があり、特に専門語を作り出す際にそれが有効に活用されるのではないかと考えられる。

3-3-2 語感

「みたいな、ような、っぽい」と違って、「ふう」「チック」「的」は、ライクと同じく、AとBをひとつながりの語にする機能がある。アクセント的にも「エーフービィー」「エーチックビィー」「エーテキビィー」となり、「エーライクビィー」と同様、前接要素のアクセントに関わらず、後接要素のアクセント核まで高さが維持されて、一つの音調句を形成する。

しかし、「AふうB」「AチックB」は、一般語的に響く。「シルクライク織物」と比べると、「シルクふう織物」は口語的・日常語的な語感がある。「シルクチック織物」になると、口語的なだけでなく、やや滑稽味を帯びるような感もある。

つまり、ライクは、「ふう」「チック」に比べて、専門語に適した語感を持つと言えるのではないか。

外来語接尾辞「ライク」

3-3-3 意味

「的」は語をつなぐ機能があるという点でライクと共通しており、語感も日常的というよりは専門語にふさわしい面がある。

それでは、「AライクB」は、「A的B」とほぼおなじであろうか。

「A的B」は、山下喜代（2000）によると、3つの意味を持つ。（1）「的」がAの表す属性概念でBを限定する、（2）「的」が比喩を表す助動詞と同じ役割を果たす、（3）AにおけるB、AについてのB、Aに関するB、AとしてのB、等の多様な意味を担ってAとBを結合する、の3つである。

しかしライクは、この「的」の意味の中では、ほぼ（2）しか持たない。すなわち、ライクは「的」に比べると意味範囲が限定的であり、あいまいさが無く、明瞭であると言える¹⁵⁾。

以上みたように、ライクは、類義語と比較すると、次の3つの性質を合わせ持つのが特徴であるといえる。

- (a) 2つ（以上）の語をひとつながりの語としてまとめるという機能を持つ。
- (b) 専門語・集団語に向いた語感を持つ。
- (c) 意味が限定的である。

4 ライクの形態変化のプロセス（仮説的モデル）

ライクが日本語化する際の形態変化のプロセスについて、次のような仮説的モデルを立てることができる。

英語 like 英語 (例：Silk-like Polyester) …英語¹⁶⁾

↓ ↓ ↓

【プロセスA】 カタカナ語ライクカタカナ語

…音声および表記の日本語化

(例：シルクライクポリエステル)

【プロセスB】 カタカナ語ライク漢語／和語

…語彙的な日本語化

(例：シルクライク合成繊維，シルクライク織物)

【プロセスC】 カタカナ語ライクなカタカナ語

…文法的な日本語化

(例：シルクライクなポリエステル，ガラスライクなプラスチック)

【プロセスC'】 カタカナ語ライクな漢語／和語／混種語

…文法的（および語彙的）な日本語化

(例：シルクライクな繊維，ドナーライクなふるまい)

【プロセスD】 漢語／和語／混種語ライクな全ての語種

…語彙的および文法的な日本語化

(例：地下鉄ライクな一般鉄道，写真ライクな高画質画像)

上記のように、このモデルでは、プロセスA・B・C・C'・Dをたてた。

まずプロセスAは、音声と表記のみが日本語化されるものである。英語をそのままカタカナに移し替えたような形式である。

プロセスBは、ライクに後接する語がカタカナ語ではなく漢語もしくは和語になるものである。「カタカナ語ライク漢語／和語」で一語であるから、語構成の一部が英語由来のものではなく、語彙的に日本語化したものといえる。

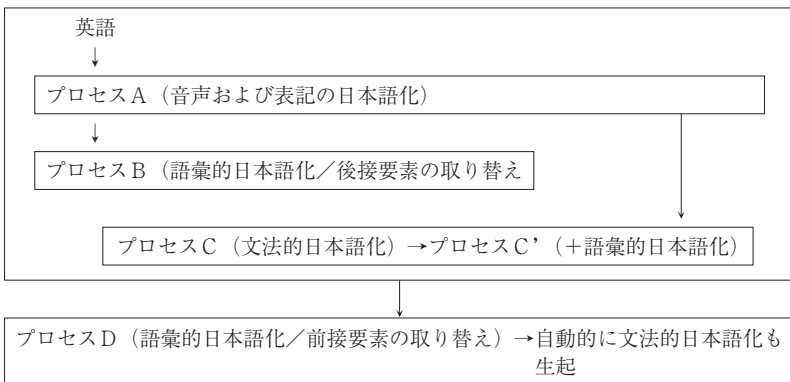
プロセスCは、ライクに「な」がついたもので、前接要素を抱え込んだ形で、形容動詞となるものである。「な」がつくことにより、日本語の形容動詞となっているので、文法的に日本語化したといえる。後接要素がカタカナ語であるものをプロセスC、後接要素に漢語／和語／混種語をとる

外来語接尾辞「ライク」

ものをプロセスC'とした。後接要素がカタカナ語であるものに比べれば、後接要素が漢語／和語／混種語であるものは、日本語化の進んだ段階であると思われるが、「～ライクな」の形になった段階で、後接要素とは別の語となり、後接要素との関係が比較的自由になると考えられるので、CとC'はごく近い関係にあると思われる。

プロセスDは、語彙の変化と文法的变化が同時に起こるものである。表4の前接要素が漢語のものをみると、すべてに「な」がつく。例が少なく、実証的でない直感的仮説ではあるが、おそらく、前接要素がカタカナ語でなくなった段階、すなわち前接要素が英語由来ではなくなった段階で、自動的に「ライク」ではなく「ライクな」の形になって後接要素へと続くのではないか。すなわち、前接要素の語彙を非英語由来のものに取り替えると、文法的日本語化も自動的に起こるのではないか。

プロセスA・B・C・C'・Dの関係を図示してみると次のようになる。



【図1 接尾辞ライクの日本語化】

すなわち、プロセスAの後にプロセスB、あるいはプロセスAの後にプロセスC、という変化が起きうる。プロセスC'はプロセスCの直後に起

きうる。プロセスDは、プロセスCの後にも起きうるが、プロセスA・B・Cの結果としてライクが日本語の接尾辞として取り出された後に、英語由来でない前接要素にライクがつく、ということも考えられる。

5 お わ り に

本稿では、外来語由来の接尾辞「ライク」について、3種の資料を調べた結果、「ライク」が趣味的な集団語、および、さまざまな専門分野における学術的専門用語、を構成するための接辞として機能していることを明らかにした。前者としては「な」が付加した形がほとんどであるが、後者としては「な」が付加しない形の方が多い。少なくとも1970年ごろまで、一般の日本語には「ライク」が接尾辞として取り入れられていなかったが、専門用語としては、1960年代から使われていた。「ライク」の基本的意味は「比喩」である。「ライク」が、特に専門語の造語成分として使われる要因は、①語をつないで一語化する機能を持つこと、②専門語に適した語感を持つこと、③意味が広すぎないこと、の3つの性質を合わせもつことであると考えられた。さらに、ライクが日本語化するプロセスについて考察し、モデルを提示した。

今後さらにデータを詳しく分析し、ライクとその類義語について、考察を深めていきたい。

注

- 1) 森岡健二(1985)には「外来語は漢語と異り、語を構成要素である形態素に分解しないで受け入れることが多いため、日本語の造語要素として機能する外来語の接辞は極めて限られてくる」とある。「ライク」はその限られた中の一つであろう。
- 2) 一般の使用例として、大阪のあべのハルカス近鉄本店のウェブサイト中の丸福珈琲店のページに「ホテルライクな雰囲気の中に安らぎを感じるカフェ。」

外来語接尾辞「ライク」

という宣伝文句が使われている。

- 3) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese) は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所と文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクトが共同で開発したデータである。現代の日本語の書き言葉の全体像を把握できるように集められたサンプルが約1億語、収録されている。BCCWJの検索ツール Web アプリケーションとして「少納言」と「中納言」がある。「少納言」では文字列検索(全文検索)を行うことができ、「中納言」では形態論情報を利用した検索ができる。「中納言」のほうが前後の文脈を長く表示することができる。
- 4) 目的とするライクを含む語の中には、未知語として検出されてしまうものが相当数あるため、短単位検索・長単位検索ではなく、文字列検索を行った。
- 5) BCCWJのデータは、書籍・雑誌・新聞・白書・教科書・広報紙・Yahoo!知恵袋・Yahoo!ブログ・韻文・法律・国会会議録の11のサブコーパスから成る。「書籍」は「図書館・書籍」と「出版・書籍」と「ベストセラー」に分けられる。
- 6) 『BOAO』『GINZA』はマガジンハウス、『PS』『マフィン』『Precious』『Oggi』『Domani』は小学館、『装苑』は文化出版局、『Zipper』は祥伝社、『JJ』『CLASSY』は光文社、『ViVi』『with』は講談社、からそれぞれ発行されている。
- 7) 大阪府立中央図書館所蔵の読売新聞のCD-ROM形態のデータベースを活用した。「ライク」で検索した後、固有名詞等を取り除いて数えた。
- 8) 本稿で用いたのは、「CiNii Articles—日本の論文をさがす」であり、学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索できるものである。CiNiiの詳細検索で、「論文名」に「ライク」を入れて検索した結果から、目的とする語以外のもの(ドライクリーニングやバードストライクなど多数)を一つずつ取り除いたうえで集計した。
- 9) 複数回出現したものについては、一度でも「な」や「の」が後接すれば□や■を付けている。例えば、ドラッグライクは3回のうち1回だけに「な」がついていた。
- 10) 「ライク」が、さまざまな専門分野にわたって造語成分として使われてい

るのは、石井正彦（1997）のサブタイトルの「学術用語の組み立てに一般語の造語成分が活躍する」にあてはまる。「ライク」は国立国語研究所編『分類語彙表』（1964年，増補版2004年／大日本図書）には掲載されていないが，それは，一般語としてはごく新しく日本語に取り入れられたためと，集団語の性質が強いためであろうと思われる。「ライク」は山下喜代（2007）の造語成分データベースの表にも載っていない。

- 11) 「ウールライク，シルクライクおよびリンネライク繊維についての一つの考察」（繊維と工業 4（10），1971年10月繊維学会）というタイトルの中にあることから，ウールやシルクに並ぶ天然繊維の材料の名前が続けて出現すると推測できるので，リンネではなくリネンが正しいのではないかと思われる。
- 12) 4つの分類のどれにも属さないものとして「ユーザーライク（PB13_00383）」がある。これは「ユーザーに対して親切的な」というような意味合いで使われているようであるが，ここでは例外的なものとして，とりあえず扱わずにおく。
- 13) 以下，CiNii から引いた使用例には，雑誌名・巻号・発行年を記す。BCCWJ から引いた使用例には，サンプル ID を記す。
- 14) ここでは便宜上，アクセントの下降を「'」で表しておく。また，3-3-1 と 3-3-2 における A（エ'ー），B（ビ'ー），C（シ'ー）は，それぞれアクセント核を有する語の代りとしておく。
- 15) 国立国語研究所編1981に，専門語，とくに学術用語の特徴として，「多義語をきらうこと」があげられている。
- 16) 「カタカナ語+ライク」という語は，いわゆる和製英語の場合もあり，必ずしも英語を直接の起源としているとは限らない。また，CiNii 掲載論文における英語タイトルや英語要旨は，日本人筆者の書いた英語であるとするとき，母語話者の英語の使い方とは異なる可能性もある。しかしここでは，実際にその語が使用された文章が流布していることをもって，「英語」としてその-like を含む語が存在するものと見なすことにし，日本語化モデルの最初の段階として「英語」を設定する。

外来語接尾辞「ライク」

参 考 文 献

- 石井正彦（1997）「専門用語の語構成—学術用語の組み立てに一般語の造語成分が活躍する—」『日本語学』16-2
- 国立国語研究所編（1981）『専門語の諸問題』（秀英出版）
- 国立国語研究所編（2004）『分類語彙表—増補改訂版』（大日本図書）
- 野村雅昭（1984）「語種と造語力」『日本語学』3-9
- 村中淑子（2012）「接尾辞「チック」について—「CD-毎日新聞」（1991-2005）およびBCCWJを用いて—」『国際文化論集』45号（桃山学院大学 国際文化学会）
- 村中淑子（2012）「外来語由来の接尾辞「チック」と類義語との比較」第1回コーパス日本語学ワークショップ（国立国語研究所2012/3/5 ポスター発表）
- 森岡健二（1985）「外来語の派生語彙」『日本語学』4-9
- 山下喜代（2000）「漢語系接尾辞の語形成と助辞化—「的」を中心にして—」『日本語学』19-13
- 山下喜代（2007）「現代日本語の語構成要素—外来語を中心にして—」『青山学院大学文学部紀要』48

資料

- ・『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ: Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese）
<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>, <http://chunagon.ninjal.ac.jp/>
- ・『明治の讀賣新聞』（1874（明治7）年11月2日（創刊号）～1912（明45）年7月）、『大正の讀賣新聞』（1912（明治45）7月～1926（大正15）年12月）、『昭和の讀賣新聞 戦前Ⅰ』『昭和の讀賣新聞 戦前Ⅱ』（1926（大正15）年12月～1945（昭和20）年12月）、『昭和の讀賣新聞 戦後Ⅰ』『昭和の讀賣新聞 戦後Ⅱ』（1946（昭和21）年1月～1970（昭和45）年12月）読売新聞社
- ・CiNii（NII論文情報ナビゲータ [サイニイ]） <http://ci.nii.ac.jp/>

The Japanese Suffix *Raiku* Derived from the English “-like”

MURANAKA Toshiko

For this paper, I studied the Japanese suffix *raiku* derived from the English expression “-like”. Based on an investigation of three kinds of corpus, I make clear in the paper that *raiku* functions as an affix to denote either words used by hobby-based groups or technical terms in various fields.

In the case of the former, “*na*” (a marker designating an adjectival verb) is almost always added, but for technical terms “*na*” is usually not added. In everyday Japanese language, *raiku* was not adopted as a suffix until at least the 1970s. However, as a technical term it began to be employed from the 1960s onward.

The basic function of *raiku* is to act as a simile. It is generally thought that *raiku* came to be used as a component of a coined technical term as a result of one of the following three factors: (1) it has the function of joining two or more words together to make a single word; (2) it carries the nuance of a technical term; and (3) its meaning is not too broad.

In addition, I consider the process by which *raiku* came to be “Japanized”, and present some models to illustrate this process.